

## 野菜の需給・価格動向レポート(平成28年1月25日版)

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	12月の価格情報		1月の価格情報		2月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し		「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格				上旬					
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			上旬	中旬				
葉茎菜類	キャベツ	72.93 (66%)	48 (66%)	96.86 (47%)	46 (47%)	57 (59%)	96.86	入荷量: 13,013t 主産地: 愛知 (58)、千葉 (18)、神奈川 (14)	平均価格 ↓ ↑	・愛知産は、冬系が8月から9月の豪雨天の影響で定植が遅れたことによって出荷が後ずれした一方で、春系が適度な降雨と気温高により前進出荷傾向となり、冬系と春系の出荷が重なっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、適度な降雨と気温高により、前進傾向での出荷となっており、現在平年よりやや多めの出荷であるが、今後は落ち着いた出荷となり、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ特段の病害もないことから生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産、千葉産及び神奈川産の出荷が平年よりやや多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。		
		76.91 (62%)	48 (62%)	92.10 (48%)	44 (48%)	52 (56%)	92.10	入荷量: 3,389t 主産地: 愛知 (41)、兵庫 (12)、大阪 (10)、和歌山 (8)、佐賀 (7)	↑			
	たまねぎ	76.15 (77%)	59 (77%)	76.15 (84%)	64 (84%)	67 (88%)	76.15	入荷量: 8,549t 主産地: 北海道 (90)	↑	・北海道産が、生育期の天候に恵まれ作柄も良好であり、最近の降雪により一時的に出荷が減少することが見込まれるもの、全体的には引き続き平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。		
		76.15 (84%)	64 (84%)	76.15 (92%)	70 (92%)	69 (91%)	76.15	入荷量: 3,338t 主産地: 北海道 (70)、兵庫 (28)	↑			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04 (100%)	240 (100%)	252.99 (113%)	286 (91%)	229 (91%)	252.99	入荷量: 5,202t 主産地: 千葉 (33)、埼玉 (26)、茨城 (15)、群馬 (13)	↑	・千葉産は、気温高により肥大が進み太物比率が高まり、現在平年並みの出荷であるが、今後も肥大が進み太物中心の出荷に加え、これまでの作業遅れのものが出荷されることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、現在降雪の影響はほとんど見られないが、害虫被害により引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、気温高により太りも良好で特段の病害もなく生育は順調で前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、千葉産及び茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。		
		467.01 (94%)	437 (94%)	473.04 (90%)	425 (90%)	348 (74%)	473.04	入荷量: 208t 主産地: 徳島 (30)、奈良 (15)、高知 (15)、香川 (12)、三重 (9)	↑			
	はくさい	40.32 (82%)	33 (82%)	64.18 (59%)	38 (59%)	36 (56%)	64.18	入荷量: 13,349t 主産地: 茨城 (87)	↑	・茨城産は、これまで天候に恵まれ、前進出荷傾向となっていることもあり、現在平年並みの出荷となっているが、今後は前進出荷の影響から平年よりやや少なめの出荷の見込み。兵庫産は、気温高により一部で害虫の被害が見られるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び兵庫産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回つて推移する見込み。		
		55.95 (100%)	56 (100%)	68.70 (79%)	54 (79%)	48 (70%)	68.70	入荷量: 4,031t 主産地: 茨城 (19)、愛知 (19)、兵庫 (15)、和歌山 (15)、宮崎 (9)	↑			
	ほうれんそう	385.11 (112%)	432 (112%)	338.43 (144%)	488 (128%)	433 (128%)	338.43	入荷量: 1,493t 主産地: 群馬 (28)、茨城 (24)、埼玉 (19)、千葉 (17)	↑	・群馬産は、特段の病害の発生もなく生育は順調なことから、今後の降雪が心配であるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、今回の降雪による影響はほとんどなく、作付面積の増加に加え、これまでの気温高により、生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、気温高など天候に恵まれ生育は順調なことから、前進出荷傾向で、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、最近の気温の低下により生育進度が遅くなるため、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年より多めと見込まれるもの、群馬産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回つて推移する見込み。		
		461.74 (122%)	563 (122%)	375.38 (135%)	506 (135%)	475 (127%)	375.38	入荷量: 546t 主産地: 徳島 (51)、福岡 (26)、群馬 (9)	↑			
果菜類	レタス (結球)	233.85 (77%)	181 (77%)	233.85 (105%)	246 (97%)	228 (97%)	233.85	入荷量: 6,623t 主産地: 静岡 (30)、香川 (12)、兵庫 (12)、福岡 (7)、千葉 (7)、熊本 (6)、茨城 (5)	↑	・静岡産は、最近の気温の低下などにより生育進度が穢れになり、徐々に減少傾向であるものの、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。香川産は、気温の低下により品質は回復傾向にあるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。兵庫産は、これまでの前進出荷と最近の気温の低下の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・静岡産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、香川産及び兵庫産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を下回つて推移する見込み。		
		226.75 (89%)	202 (89%)	226.75 (120%)	271 (120%)	241 (106%)	226.75	入荷量: 920t 主産地: 兵庫 (49)、徳島 (22)、長崎 (10)、香川 (9)	↑			
	きゅうり	370.98 (139%)	516 (139%)	370.98 (92%)	342 (108%)	401 (108%)	370.98	入荷量: 4,996t 主産地: 宮崎 (41)、千葉 (21)、高知 (20)	↑	・宮崎産は、日照不足や高温により花落のあった影響で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育も概ね順調であることから、徐々に回復し今後は平年並みの出荷の見込み。高知産は、曇天などの影響で根の張りが弱いなどから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、特段の病害の発生もなく生育は概ね順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の周期的に変わる天候から出荷が安定せず、今後も冷え込みが厳しいことが見込まれることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回つて推移する見込み。		
		350.33 (138%)	482 (138%)	350.33 (88%)	310 (88%)	379 (108%)	350.33	入荷量: 1,079t 主産地: 宮崎 (47)、高知 (21)、徳島 (18)	↑			
	トマト (大玉)	349.23 (99%)	344 (99%)	349.23 (104%)	363 (117%)	410 (117%)	349.23	入荷量: 5,063t 主産地: 熊本 (45)、愛知 (15)、栃木 (14)、静岡 (5)、千葉 (5)、宮崎 (4)	↑	・熊本産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の曇天による日照不足もあり着色が鈍いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。愛知産は、病害はないものの、成り疲れや最近の気温の低下の影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、小玉傾向であるが、全体的に生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・栃木産の出荷が平年並みと見込まれるもの、熊本産及び愛知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回つて推移する見込み。		
		326.61 (107%)	350 (107%)	326.61 (111%)	361 (121%)	396 (121%)	326.61	入荷量: 916t 主産地: 熊本 (73)、愛知 (8)	↑			
	なす	389.03 (113%)	441 (113%)	389.03 (98%)	380 (98%)	491 (126%)	389.03	入荷量: 2,035t 主産地: 高知 (64)、福岡 (16)	↑	・高知産は、12月の曇天の影響もあって、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、全般的に生育は順調なことから、今後は徐々に回復し平年並みの出荷の見込み。福岡産は、花落ちによる影響が残っていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回つて推移する見込み。		
		397.74 (108%)	429 (108%)	397.74 (94%)	372 (94%)	496 (125%)	397.74	入荷量: 338t 主産地: 高知 (37)、熊本 (29)、福岡 (19)、岡山 (11)	↑			
	ピーマン	378.83 (149%)	563 (149%)	578.80 (89%)	518 (89%)	565 (98%)	578.80	入荷量: 1,539t 主産地: 宮崎 (52)、高知 (21)、鹿児島 (15)、茨城 (11)	↑	・宮崎産は、これまでの前倒し出荷に加え、成り疲れによる影響と最近の曇天による日照不足から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、全般的に特段の病害の発生もなく生育は順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、樹勢が弱く、成り疲れによる着花の低下の影響に加え、最近の曇天による日照不足から引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産の出荷が平年並みと見込まれるもの、宮崎産及び鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在概ね平年並みの価格は、平年を上回つて推移する見込み。		
		371.29 (150%)	558 (150%)	565.30 (83%)	470 (83%)	521 (92%)	565.30	入荷量: 336t 主産地: 宮崎 (48)、高知 (23)、鹿児島 (14)	↑			
根菜類	だいこん	67.55 (75%)	51 (75%)	79.03 (62%)	49 (54%)	43 (54%)	79.03	入荷量: 12,920t 主産地: 神奈川 (52)、千葉 (38)	↑	・千葉産は、適度な降雨と気温高から生育は順調で肥大が進み、太物の発生率が高いものの、下位等級の出荷を行っていないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		76.48 (75%)	57 (75%)	80.47 (66%)	53 (56%)	45 (56%)	80.47	入荷量: 3,109t 主産地: 長崎 (31)、徳島 (22)、鹿児島 (22)、和歌山 (21)	↑			
	にんじん	105.86 (82%)	87 (82%)	111.16 (67%)	75 (63%)	70 (63%)	111.16	入荷量: 6,674t 主産地: 千葉 (86)	↑	・千葉産は、適度な降雨と気温高により生育は順調で肥大が進み、太物傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回つて推移する見込み。		
		104.49 (114%)	119 (114%)	109.97 (77%)	85 (77%)	75 (68%)	109.97	入荷量: 1,943t 主産地: 鹿児島 (41)、長崎 (40)、鳥取 (10)	↑			

種類		12月の価格情報		1月の価格情報		2月 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し	「図の見方」	
		下旬 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定期間 の関東・近畿 ブロック旬別平均販売 価額	上旬 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	中旬 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格				現時点の価格水準 平均価格	今後の価格水準
いも類	さといも	220.97 (133%)	293	228.85 (128%)	293	259	228.85	・入荷量：730t ・主産地：埼玉（36）、千葉（33）	➡	・埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷であるが、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、貯蔵物の出荷で現在平年並みの出荷となっているが、これまでの前進出荷の影響で残量が少ないことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産及び千葉産の出荷が平年よりやや少ないと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	ばれいしょ	217.56 (159%)	345	219.65 (153%)	335	299	219.65 (136%)	・入荷量：184t ・主産地：愛媛（65）、熊本（15）、宮崎（14）、輸入（5）、奈良（1）	➡	・北海道産は、道内の量販店などからの引き合いが強いため、道外向けの出荷が減少し、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。長崎産は、生育期の天候不順の影響から小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、11月の高温と降雨により小玉傾向となっていることに加え、最近の降雨により掘り取り作業の遅れから現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、2月以降に出荷されるばれいしょの生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。 ・長崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、北海道産及び鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	じゃがいも	96.99 (93%)	90	96.99 (102%)	99	104	96.99	・入荷量：8,326t ・主産地：北海道（63）、長崎（27）	➡	・
	かぶ	96.99 (89%)	86	96.99 (99%)	96	103	96.99	・入荷量：2,158t ・主産地：北海道（65）、長崎（28）	➡	・

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の人荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

種類		12月の価格情報		1月の価格情報		2月 (参考) 過去5年 平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し	「図の見方」	
		東京・大阪 市場の 旬別価格	(参考) 過去5年 平均価格	東京・大阪市場の 旬別価格	(参考) 過去5年 平均価格				現時点の価格水準 平均価格	今後の価格水準
洋菜類	ブロッコリー	313.68 (66%)	208	392.30 (62%)	245	369	332.22	・入荷量：1,908t ・主産地：愛知（35）、香川（21）、埼玉（14）、長崎（6）、輸入（6）、福岡（5）、群馬（5）	➡	・愛知産は、気温高の影響から生育は順調で前進出荷傾向となっており、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。香川産は、これまでの前進出荷の影響で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の気温の低下から引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・愛知産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、香川産及び埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、日々に値を上げ現在概ね平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。
	かぶ	376.05 (56%)	212	425.72 (55%)	233	391	350.96 (92%)	・入荷量：455t ・主産地：徳島（35）、鳥取（13）、長崎（11）、和歌山（10）、香川（8）	➡	・千葉産は、適度な降雨と気温高により生育は順調で前進出荷傾向となっているが、これまでの前進出荷の影響と最近の冷え込みから落ちていた出荷が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。
根菜類	かぶ	114.51 (100%)	115	153.79 (88%)	135	115 (75%)	139.51	・入荷量：1,439t ・主産地：千葉（86）、埼玉（10）	➡	・
	かぶ	125.22 (105%)	132	139.51 (93%)	130	111 (80%)	137.86	・入荷量：263t ・主産地：徳島（41）、福岡（28）、石川（16）、奈良（10）	➡	・

注：1 平均価格は、過去5年間（平成22年から26年）の東京及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。

3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景色は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで前年実績である。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

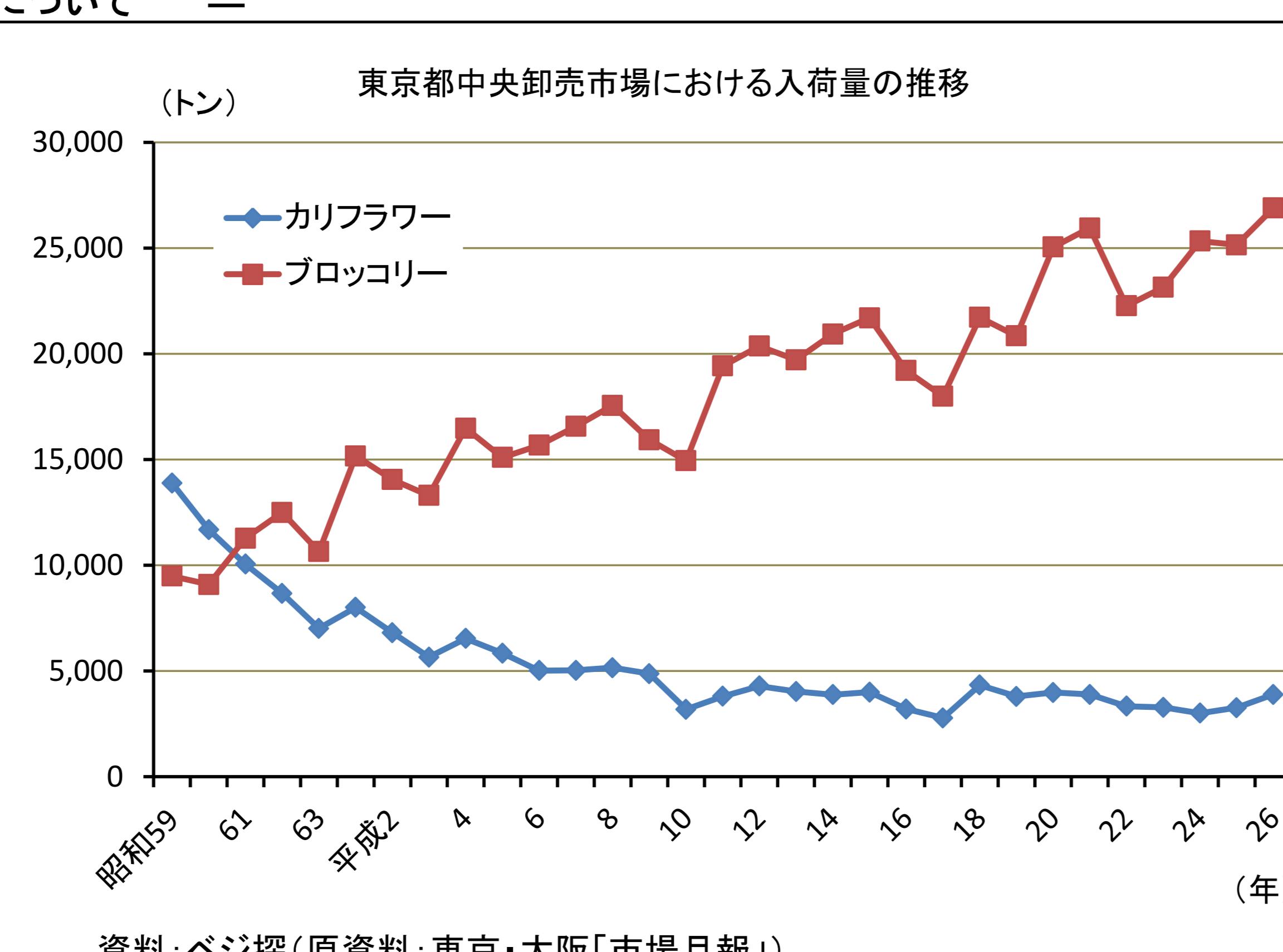
## 2 トピック —プロッコリーの需給動向等について—

今回は、作付面積及び出荷量が増加している野菜の中で、近年、その増加が著しく、旬でもあるプロッコリーの需給動向等について紹介する。

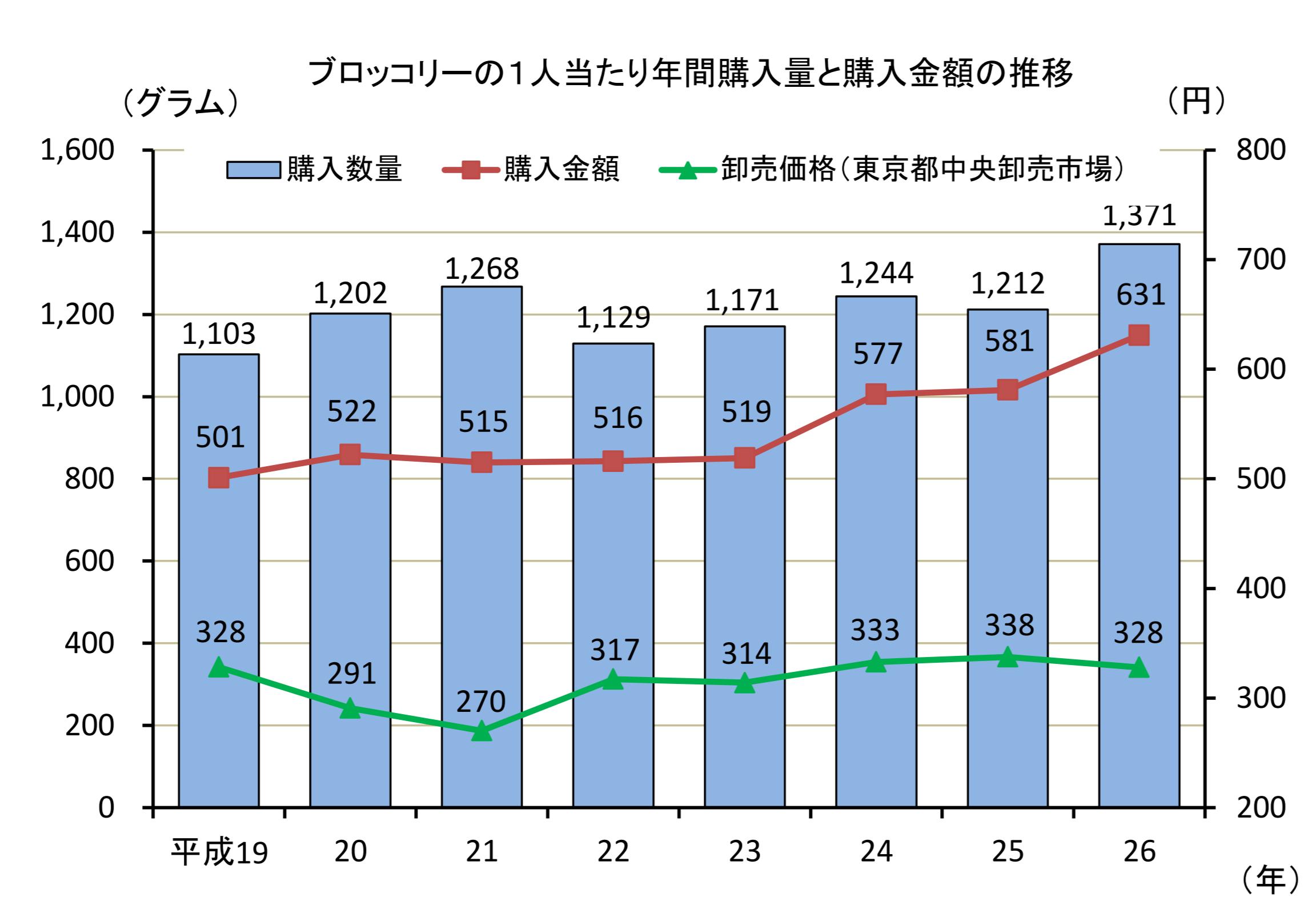
プロッコリーは、カリフラワーと同じキャベツの仲間で、ともに明治時代に日本に入ってきた。プロッコリー、カリフラワーともに当時は普及しなかったが、戦後、生野菜を使ったサラダが普及し始める。昭和30年代後半からカリフラワーの需要が高まった。プロッコリーは、栄養価の高い緑黄色野菜として、50年代以降本格的に普及し、先に普及したカリフラワーより人気が高まった。61年には東京都中央卸売市場における入荷量が逆転し、以降、プロッコリーの入荷量はカリフラワーを上回っている状況が続いている。

平成26年のプロッコリーの作付面積は1万4100ヘクタール、出荷量は13万400トンとなっており、作付面積、出荷量、単収を19年と26年で比較すると、作付面積が118%、出荷量が119%の増加率となっている一方、単収は微減しており、出荷量の増加は作付面積に負うところが大きい。都道府県別に見ると、北海道（2万1700トン）が最も多く、次いで埼玉県（1万3800トン）、愛知県（1万3300トン）となっており、これら3県で全国のおよそ4割を担っている。また、香川県は作付面積が173%、出荷量が159%、長崎県は作付面積が165%、出荷量が160%と著しい増加を示している。東京都も15位の茨城県に続く出荷量（1750トン）となっており、都市農業の重要な作物となっている。

総務省「家計調査報告」によると、1人当たりのプロッコリーの購入量（含む冷凍）は、健康志向から近年は増加傾向で推移し、26年は1371グラムとなっている。年代別にみると、20歳代が最も少なく、60代が最も多くなっており、全体として年齢が高いほど購入量が多くなる傾向にある。また、調理の簡便性から冷凍プロッコリーの消費も増加しているほか、発芽した芽を食べる「スプラウト」も栄養面から注目され、人気となっている。



資料：ベジ探（原資料：東京・大阪「市場月報」）



資料：ベジ探（原資料：総務省「家計調査報告」（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く））及び東京・大阪「市場月報」）

